

まちかどライブを起点とする商店街活性化の社会実験

—地域資源としての地元大学生と商店街との「ご縁」の創出—

日本大学文理学部社会学科 後藤研究室

しもたかサマーフェスティバル 40回記念

今年はスペシャルコラボレーション

第40回しもたかサマーフェスティバル

夜はしもたか商店街

昼は日大学生有志

8月28±29日

子どもたちへお菓子を無料配付します

2回目の松沢サンパ終了後(午後7:45ごろ)※多少時間の変更あり(両日とも先着400名様)

40回記念。今年は会場が2ヶ所!

松沢小学校正門前の広場

ひまわり広場駐車場

会場:ひまわり広場駐車場

☆縁日コーナー 午後4:00~

大ビンゴ大会 午後5:00~

景品 ★ディズニーペアパスポート ★下高井戸シネマ映画鑑賞券
★目覚し時計 ★FC東京ペアチケット ★こしひかり2kg
★FC東京サイン入りレプリカユニフォーム
★DSライトソフト ★しもたかスタンプ200枚

しもたか盆踊り 午後5:30 ~8:00 28日(土)
~8:45 29日(日)

・盆踊り(東京音頭、世田谷音頭、炭坑節、きよしのスンドコ節、ドラえもん音頭など)
・松沢サンパ・よさこい囃子踊り・フラダンス
・南中ソーラン(松沢小5年生有志)・ストリートダンス

主催:下高井戸商店街振興組合 しもたかサマーフェスティバル実行委員会

まちかどライブ in しもたかサマーフェスティバル

午後2:00~4:00

会場:松沢小学校正門前の広場

出演団体

- ダブルダッチサークル「D.S.P」(世界選手権上位入賞)による踊りバフォーマンス
※会場のお子さんと一緒に演技するコーナーあり
- アカペラサークル「ソルファ」による合唱
- ダンスサークル「Hype」によるダンスパフォーマンス
- 経営実習サークル「フラワーレイ」による演奏

会場にてアンケート票を配付(午後1:45より先着150名様)

ライブ終了後、ご記入頂いたアンケート票と引換えに「しもたかご縁券」(100円券)3枚を差し上げます。

※「ご縁券」は、下高井戸商店街振興組合加盟店で、8月12日(日)までの期間、全券としてお使いいただけます(限り、おつりは出ません)

このライブは日本大学文理学部社会学科 後藤研究室「まちかどライブ」を起点とする商店街活性化の社会実験—地域資源としての地元大学生と商店街との「ご縁」の創出—研究プロジェクトの一環として実施します。

◎詳しくはお店のチラシをご覧ください。

監製:世田谷区 監ジョイント企画:日本大学文理学部社会学科 後藤研究室

第40回 しもたかサマーフェスティバルのポスター (下高井戸商店街振興組合制作)

メンバー: ◎池田遼太郎・日野賢太郎・山崎亮 (以上4年生)、有田沙樹・糸井友里・磯本沙織・市川慧・今宮典・岩瀬成司・岡野慎治郎・荻井沙織・○上村哲平・川添智之・坂本菜穂子・司茂武朗・○鈴木敦子・橋場祐二・深瀬雄幹・本田裕美・松本庄平・米田愛恵・矢崎宏一郎 (以上3年生) ◎: リーダー/○サブリーダー 担当教員: 後藤範章 (日本大学文理学部教授)

1. はじめに—社会実験の背景—

近年、地域と大学が協働して進めるまちづくりの実践活動が各地で盛んに試みられ、論じられるようになってきている。『学びの場』と『商いの場』とのドッキング(片寄俊秀, 2002)、「地域との協働・協創による大学まちづくり」(伊藤眞知子・小松隆二, 2006)、「タウン(都市・地域)とガウン(大学)との共創まちづくり/都市・地域と大学との創造的な連携」(小林英嗣+地域・大学連携まちづくり研究会, 2008)、「大学と商店街とのコラボレーション」(三浦展+神奈川大学曾我部昌史研究室, 2008)、「大学と地域とのパートナーシップ」(上野武, 2009)等々が指向・模索され、多くの成果が蓄積されている。東京商工会議所が、「大学・地域の協働による学生まちづくりプレゼンテーション大会」を自治体や商店街と連携して開催し続けているところにも、その今日的なありようがよく表れていると言えるだろう。

大学が、地域住民・市民に開かれた生涯学習の場として、図書館を開放したり、公開講座を開催したり、社会人を学生として受け入れるなどといった、従来からの「提供型」の(塀で囲まれた閉鎖的なキャンパスに入ってくる人たちに向けて教育機会を提供する)スタイルを越えて、大学・学部が立地する地域の中に学生・教職員が積極的に飛び込んでいって、様々なアクターと連携・協働しながら、地域の問題・課題に真正面から向き合い、共に学び経験し、汗を流し知恵を出し合って、地域社会と大学を共に再生・活性化させていく「‘コミュニティ・キャンパス’化」(小林ほか, 2008)が確実に進行しているのである。

都市社会学を専攻する学部生・大学院生から構成される当研究室では、学部のゼミナールを中核として、1994年度より、「写真で語る:「東京」の社会学」と題するプロジェクトに取り組み、独自に開発した「集合的写真観察法」というビジュアル調査法によって、「東京」という巨大都市をフィールド=学びの場=キャンパスと位置づけ、現場/現地に密着した調査研究活動を積み重ねている(後藤範章, 1996, 2000, 2009a, 2009b ほか多数)。また、成果(作品群)をウェブ上で公開すると同時に、1994~2004年度は学部祭(3日間の会期)で、2005~2009年度は“「東京」を観る、「東京」を読む。”と題する学部主催の学術展覧会(10日間の会期)で展示発表しており、新聞社その他の外部機関を共催相手とする後者に関しては、日本都市社会学会、世田谷区、世田谷区・調布市・府中市の各教育委員会の他に、地元の商店街振興組合や町会連合会にも後援していただいている。展覧会の企画と実際の運営は、学部のバックアップを得て当研究室の学生が担っており、地元関係者や外部機関との連携・協働の実践活動も積極的に行ってきた。

こうした経験と成果の蓄積を土台として、ここ数年は、京王線の立体化計画に伴って再開発構想が浮上する学部最寄り駅の下高井戸駅と桜上水駅の周辺地区において、「民・学・官の連携・協働によるまちづくり」に参画しており、「下高井戸駅周辺地区街づくり協議会」並びに「桜上水駅周辺地区街づくり協議会」とのパートナーシップを構築中である。当研究室では、都市計画・建築・工学系の「ハードな街づくり事業」に、人づくり/コトづくり/関係づくり/仕組みづくりといった「ソフトなまちづくり活動」の視点と方法を注入することを目指して、地域資源(=地域に眠る宝もの)を発掘して有効活用できる仕掛けと仕組みづくりに精力を注いでいる(後藤範章, 2010)。

2. 社会実験の概要

2-1 社会実験のテーマと目的

「まちかどライブを起点とする商店街活性化の社会実験—地域資源としての地元大学生と商店街との『ご縁』の創出—」をテーマとする<社会実験>を実施し、大きなポテンシャルを秘めながらも、飲食・居酒屋やコンビニエンスストアなどに偏った消費行動を取る傾向が強い大学生(日大文理学部生)と商店街(下高井戸商店街)との接点(ご縁)を広げ、実現可能性の高い商店街活性化の方策を見出すことを目的とする。この際には、a. ソーシャル・キャピタルとしての「日本大学文理学部」、b. 下高井戸商店街振興組合や世田谷区(政策研究担当課や鉄道立体・街づくり調整担当課)と日大後藤研究室とが取り結んでいる関係性、c. 民・学・官の連携・協働によるまちづくり活動の蓄積といった、(まだ顕在化していない/眠ったままの)「地域資源」を最大限に有効活用することを通して、社会実験の実効性を高めることとする。

2-2 下高井戸商店街の概要

下高井戸商店街は、京王線下高井戸駅(1913年開業)及び東急世田谷線下高井戸駅(1925年開業)周辺の、「駅前通り」「北口レンガ通り」「日大通り」「シネマ通り」「玉電通り」「公園通り」などの通り沿いに広がっており、駅前市場に代表される生鮮食品を中心とした対面販売店の充実が特色の1つとなっている。京王線駅前の踏切を中心に半径1kmにある町丁目(世田谷区松原2・3・4丁目、同赤堤3・4・5丁目、同桜上水3・4・5丁目、杉並区下高井戸1・2・3丁目、同永福1・2丁目の14町丁目)を「下高井戸圏」と見なすと、人口:50,304人、人口密度:145人/ha(23区部の平均は136.6人/ha)、世帯数:26,158世帯であり、京王線下高井戸駅(新宿まで約10分)の乗車人員は年間836万人/1日平均2

万3千人（2007年）を数える。（以上、伊藤滋ほか、2008による）

下高井戸駅から日大通りを歩いて約8分のところに日本大学文理学部（学生・教職員約1万名）がある他、日本大学櫻丘高校、東京都立松原高校、世田谷区立松沢中学校、同松沢小学校があり、商店街を学校と住宅が取り囲んでいる。



図1. 下高井戸商店街の略図（下高井戸商店街振興組合のホームページより）

2-3 社会実験の内容と手順

①下高井戸商店街振興組合と日大文理学部社会学科後藤研究室がタイアップして、「まちかどライブ」を起点とする商店街活性化の社会実験を行う。

②2010年8月28日(土)・29日(日)に開催される「しもたかサマーフェスティバル」(主催:下高井戸商店街振興組合)へのジョイント企画として、松沢小学校正門前広場を会場に、文理学部の学生サークル(後藤研究室の学生が所属する団体)が出演する“まちかどライブ”を実施する。

③ライブは、文理学部のアカペラサークル「ソルファ」、軽音楽サークル「フラワーレイ」、世界選手権にも出場したダブルダッチサークル「D.S.P」、ダンスサークル「Hype」の4サークルに出演してもらう。コーディネートとプロデュース及び実際の運営(ライブの司会を含む)は、日大後藤研究室が担当する。

④「まちかどライブ」のプログラムと出演団体の情報を「サマーフェスティバル」のポスターに入れて商店街に掲示する。詳細な案内チラシについても、振興組合加盟店(約160店)に置いて来店者に持って行ってもらえるようにする。

⑤ライブに来てアンケートに回答した人には、加盟店で利用できる期間限定(9/12までの2週間)の「しもたかご縁券」(百円単位の一つの地域通貨。おつりナシ)を3枚(300円分)差し上げると、チラシの中で明示する(3枚でかろうじて一定のインパクトがあり、社会実験の効果を測定する有効性もある程度期待できる)。

⑥8/28・29の両日、文理学部の学生サークルが「まちかどライブ」を行い、来場者にアンケートに答えていただく。アンケートはその日のうちに会場で回収し、「しもたかご縁券」3枚と引き替える(その際には、振興組合加盟店のリストも一緒に渡す)。また、ライブ出演団体をはじめとする日大生にもアンケートに答えてもらい、日大生用の(一般とは区別した)「しもたかご縁券」を5枚渡して、期間中に使ってもらう。但し、日大生用に限り、商店街と学生との新たな「ご縁」を創出するために、飲食店を対象から外す(学生に下高井戸を「再/新発見」してもらいながら商店街での買い物を“誘発”し、商店街での買い物動向や潜在的なニーズのありかを探る)。

※ 一般用は、「まちかどライブ」会場にて、ライブ終了時に中学生以上の来場者に、日大生用は、出演した学生サークルのメンバーや運営などにあった学生(サマーフェスティバルのボランティア学生を含む)に、それぞれ配布し、その日のうちに回収する(従って、ご縁券の配布もその日のうちに済ませ、その日のうちに使ってもらえるようにする)。

⑦アンケートには、年齢、性別、居住地、下高井戸商店街までの所要時間、交通手段、商店街で1週間に買い物をする回数、よく利用する店・好きな店・その理由、こんな店があつて欲しい・こんな品物を扱って欲しい・こんな街になつて欲しいなどの要望、まちかどライブに対する感想、その他の必要な項目を入れ込む。

⑧アンケートの集計・分析も後藤研究室が責任を持って行い、データ及び結果を商店街振興組合のウェブで公表する。

⑨配布した「しもたかご縁券」の数量(一般/日大生用)、実際に利用された「ご縁券」の数量(店別/総計)などのデータを集め、分析に供する。店で使われる際には、利用日時・利用者の性別・年齢・購入した商品等のデータを収集し、ご縁券が実際にどのように使われたかを事後追跡調査する。

⑩こうした諸データの分析によって、来街者がどこからどのくらい来て、どの程度商店街に滞留し、どのような消費活動を行うかを実証的に明らかにし、今後の商店街活性化策に生かせるノウハウを引き出す。

⑩これら一連のプロセスと結果を、2010年10月24日に開催される「学生まちづくりプレゼンテーション大会」（主催：東京商工会議所、共催：世田谷区・せたがや自治政策研究所・世田谷区商店街連合会）において、後藤研究室の学生が発表する。

2-4 設計（基本的なデザイン）

・アンケートは、一般用（まちかどライブの来場者）で300名を上限とする。日大生用は、ライブ出演者や運営・サポートのスタッフなどの合計120名とする。しもたかご縁券（金券）を、一般のアンケート回答者に300円分、日大生の回答者に500円分渡すので、総額で15万円（300円×300名+500円×120名）の経費を要する。予算の関係上、来場者が予想を越える数になった場合も、この範囲内に収めるように心がける。

・アンケート票（一般用を後掲=4.5頁の図3）は、短時間で回答（記入）できるものにする。A4サイズで2頁、両面印刷で1枚に留める。数値記入と自由記述式の回答を主とする。回答／提供される情報に予め枠をはめず、「生の声」を可能な限りすくい上げるために、プリコード（選択肢を与える方）式の設問は極力少なくする。

・数量データは、計量分析にかける他、アフターコーディングしてカテゴリカルデータに変換し集計・分析する。自由回答は、アフターコーディングしてカテゴリカルデータに変換すると共に、テキストマイニングソフトを使って分析する。データの整理・加工並びに集計・分析には、表計算ソフトExcel、統計解析ソフトSPSS Statistics、共分散構造分析ソフトAmos、テキスト（自由回答の）マイニングツール SPSS Text Analytics for Surveyを用いる。

・ご縁券（一般用と日大生用）は、商店街での利用を促し消費動向に関する生きたデータを得るためにも、見栄えの良いものを作る（Adobe Illustrator を用いて自前でデザインし制作する）。



図2. しもたかご縁券（日大生用）の表面と裏面

3. 社会実験の経過と結果（中間報告）

3-1 まちかどライブの開催とアンケートの配布・回収

「まちかどライブ in しもたかサマーフェスティバル」は、8月28日(土)・29日(日)の午後2時~4時、世田谷区立松沢小学校の正門前広場の特設ステージで行われた。両日とも気温35度を超える酷暑の炎天下で、果たして人が集まるのかと危ぶむ声もあったが、ライブが盛り上がるにつれ人だかりは増え、会場に面した道路を含めて多い時で100名以上の老若男女がステージに視線を向け、大成功を収めることができた。（6頁に掲載の写真=図4を参照のこと）

アンケート票は、ほぼ設計通り、一般用300部、日大生用127部の合計427部を回収した。ご縁券も、規定の方針通り合計で1,500枚（15万円分）を配布した（受け取らなかった人が7名出た関係で予定通りとなった）。なお、アンケートの回収とご縁券の配布（引き替え）は、両日とも午後6時まで行った。

3-2 まちかどライブに対する「生の声」

アンケート票に記された代表的なコメントを、原文のままいくつか紹介しておきたい（年齢と性別も掲載）。

77歳女性：猛暑の中すごいエネルギー、音楽の好きな私は楽しんで聴く事ができました。若い人のエネルギーに脱帽です。

<6頁に続く>

下高井戸商店街における消費動向等の実態調査 【一般】

#2

日本大学文理学部社会学科
後藤範章研究室

「ご縁券」の引き替え #3

このアンケートは、「まちかどライブを起点とする商店街活性化の社会実験 ―地域資源としての地元大学生と商店街との『ご縁』の創出―」と題する研究プロジェクトの一環で、下高井戸商店街振興組合の全面的なご支援を得て、**中学生以上の方々を対象に実施する**ものです。

下高井戸駅周辺の商店街の「商圈」がどのくらい広がっているのか、下高井戸の商店街での日頃の「消費動向」がどうなっているのか、商店街に求める「ニーズ」がどのようなものなのか、等についての実態を把握し、商店街の今後の振興策を検討する上での基礎資料とさせていただきます。

個人情報に関わる内容も含まれておりますが、無記名で、コンピュータで全てを処理し、当研究室が情報を一元的に厳重管理しますので、ご迷惑をお掛けすることは絶対にありません。また、得られたデータは、商店街活性化の社会実験のみに使用し、その他には一切使用致しません。

地域社会の大切な共有財産である商店街が今後ますます発展し、地域住民の利便性や暮らしやすさをより一層向上させる一助とするために、皆さまのご協力を心よりお願い申し上げます。

お書きいただいたアンケートは、「まちかどライブ」会場の受付(8/28(金)・29(土)の午後4~6時まで)にお持ち下さい。下高井戸商店街振興組合加盟店で金券として使える(9月12日までに限定させていただきます)「しもたかご縁券」をアンケート1通につき3枚(300円分相当)差し上げます。

Q1. あなたは、 1. 男性 2. 女性 #4

Q2. あなたの年齢は、 _____ 歳 #5

Q3. 現在、あなたはどちらにお住まいですか。

_____ 都・県 _____ 区・市・町・村 _____ 丁目・町・字等 #6

Q4. 現在お住まいの区・市・町・村に、**住み始めてから何年**くらい経ちますか。

だいたい _____ 年くらい #7

Q5. 日頃(睡眠時間を除く平日の1日)、あなたが**最も長く過ごす場所**はどちらですか。

1. 自宅 2. 自宅以外(職場や学校など) #8

Q6. あなたのご自宅から下高井戸駅周辺の商店街に来るのに、どのような**交通手段**を使うことが多いですか。あてはまるものに、全て○をつけて下さい。

1. 徒歩 2. 自転車 3. バイク・オートバイ 4. 車 5. バス 6. 電車 #9

Q7. では、ご自宅から下高井戸の商店街まで、いつもだいたい**どれくらい**の時間がかかりますか。

片道でだいたい _____ 分くらい #10

※ Q1~Q10には、
必ずお答え下さい。

図3. アンケート票(一般用)の表面(上)と裏面(次頁)

Q8. あなたやあなたのご家族は、下高井戸の商店街で1週間のうち何回くらい買い物や飲食をされますか。また、1回あたり何店舗くらい回られますか。

1週間に平均して_____回くらい訪れ、#11 1回につき_____店舗くらい回る #12

Q9. あなたやご家族が下高井戸の商店街に来られる場合、どのくらいの時間とお金を使われますか。

平均して、だいたい_____分くらいいて、#13 _____円くらい使う #14

Q10. 下高井戸の商店街の中で、あなたがよくご利用されるお店（スーパーやコンビニ、飲食店を含む）や施設（学校・センター・医院など）の名前をお聞かせ下さい（いくつでも）。

#15

Q11. では、下高井戸の商店街で特にお気に入りまたはお勧めのお店があれば、名前をお聞かせ下さい（いくつでも）。また、その理由も教えてください。

#16

Q12. 下高井戸の商店街の特色や魅力をあげるとすれば、それはどんなことだと思いますか。

#17

Q13. 下高井戸の商店街を対外的にアピールする「キャッチフレーズ」が浮かぶようでしたら、お書き下さい。

#18

Q14. 下高井戸にこんな店があつて欲しい、こんな品物を扱って欲しい、こんな商店街になって欲しいなどのご意見やご要望があれば、ご自由にお書き下さい。

#19

Q15. 最後に、日本大学文理学部の学生サークルによる「まちかどライブ」は、いかがでしたか。今後、こうしたイベントが開催されたら、また参加したいと思いますか。「まちかどライブ」について一言で結構ですので、ご感想やご意見をお聞かせ下さい。

#20

ご協力、ありがとうございました。ライブ会場の受付に、午後6時までにご提出下さい。「ご縁券」を差し上げます。



① (上) ③ (下)



② (上) ④ (下)



図4. まちかどライブの様様 (④はアンケート回収の様子)

<3 頁からの続き>

65 歳男性：学生さんが地域社会に積極的に参加し素晴らしい。

64 歳女性：とても良かったです。イベントが大好きです。元気もらって楽しいです。

58 歳女性：私は 58 才ですが久々に青春を感じました。若いってそれだけで輝いて、希望に満ちみちて、私の昔を思い出し、このところ落ち込んでいたのですが元気が出ました。ありがとう。

53 歳男性：なかなか顔の見えない日大生が地元地域で/地域の前で存在感を示してくれた。とても良かった。

50 歳女性：「まちかどライブ」活気があって楽しくて良いと思います。皆さんの歌声ステキでした！ また参加したいです。

50 歳女性：地元商店街とこういう形で交流がある事を初めて知って、少し感心しました。大学近くの商業施設や社会に貢献するのは互いにメリットがあると考えます。もっとやってもよいと思います。期待しています。

50 歳女性：ハーモニーがすごく良い、気分が明るくなる。歌声が聞こえると、町が元気になる感がある。

48 歳女性：学生さんが街に溶け込み、元気な笑顔が見られると楽しくなってきます。一年を通して触れ合う機会があるといいです。

46 歳男性：年一回ではなく、イベントが多くあると楽しいです。学生さんの発表、パフォーマンスを地域住民が楽しめるのは学生街に住むからなので、もっと交流があれば街に住む事が楽しくなります。家族と見に来ましたが、日大生は元気があり、気さくで若者らしいと思います。もっと日大生と触れ合う機会があると嬉しく思います。

43 歳男性：面白かった。全てのサークル、レベル高い！ 歌もうまい！ ダブルダッチすごかった！

43 歳男性：2 才の子供も楽しそうでした。これからも頑張ってください

39 歳女性：今の大学生の方々と余りふれあう機会がないものですから、活気あふれる皆さんの活動はとても心踊るものがありました。ありがとうございました。

38 歳男性：レベルの高さに驚いた。相当練習したと思う。日大生には多彩な人材がいると知った。

33 歳男性：地域の人と積極的に交流する事は、相互理解を得やすく、地域活性化にもつながると思う。

31 歳男性：楽しかったです。これからも下高をもりあげていけるようなイベントをどんどんやってください。

29 歳男性：大学生のイベントは、ジャンルも幅広いし、元気があるのでもっと企画してもらいたい。楽しかったです。

23 歳女性：イベントが開催されると知らずに歩いていたので、急に歌声が聞こえてきて思わず足を止めて聞き入っていました。たまにこういうイベントがあれば楽しいので、これからもイベント見に来たいです

3-3 データの分析結果と主な知見

- ・回答者の属性：性別や年齢（日大生は学年）、居住歴に大きな偏りは見られなかった。

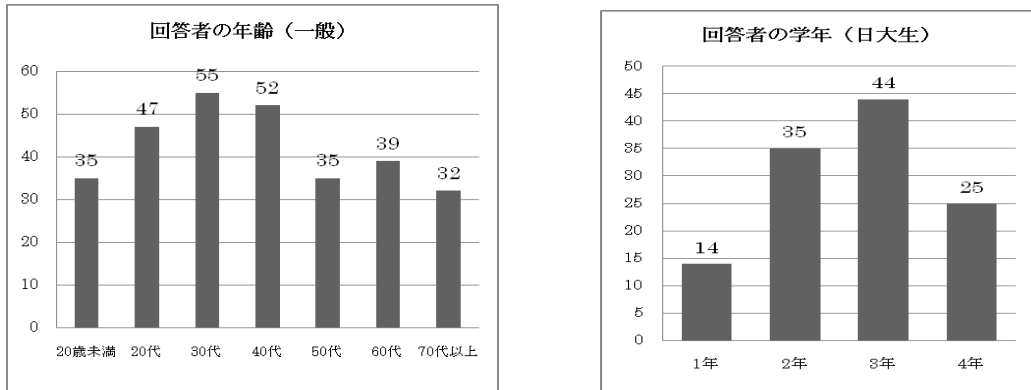
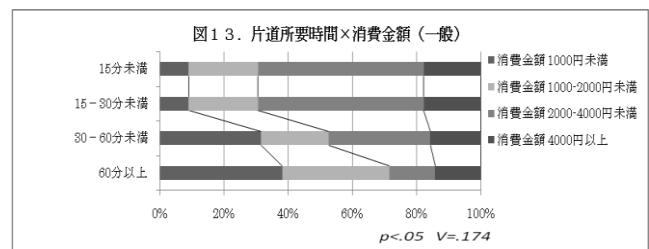
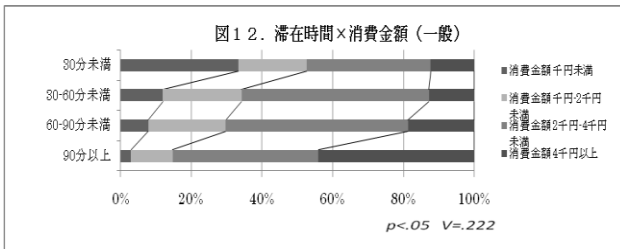
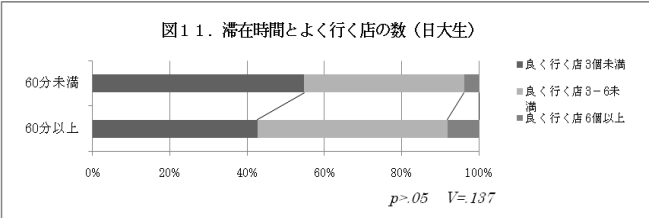
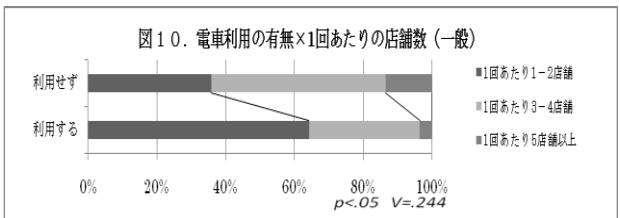
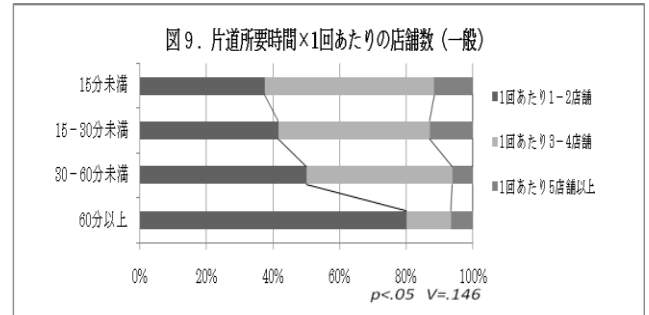
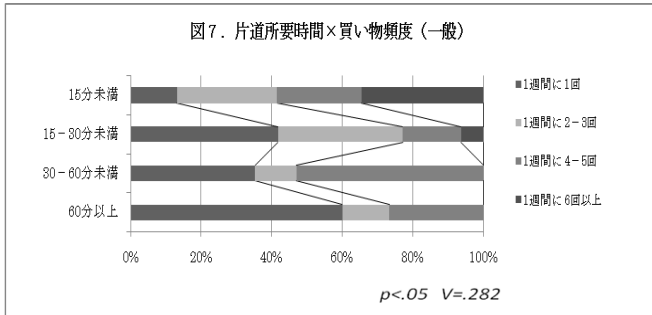
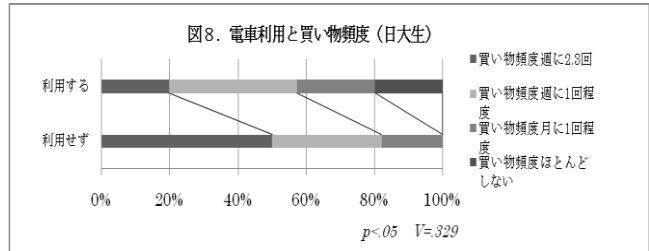
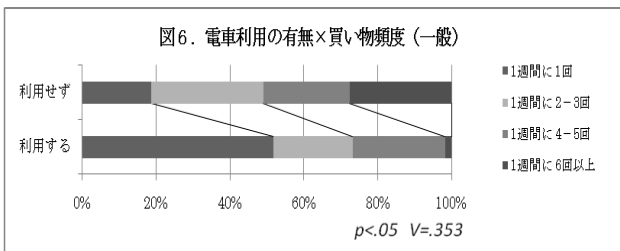


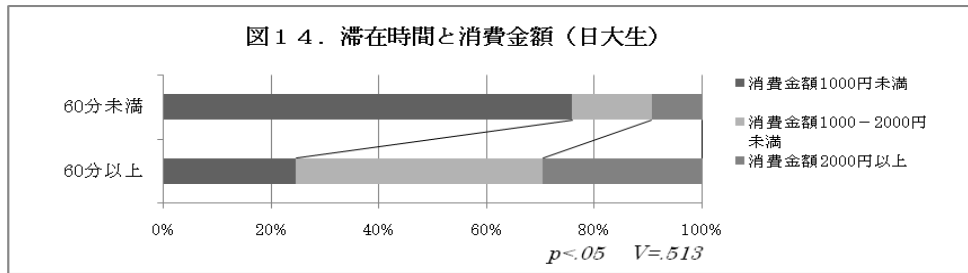
図5. 回答者の属性（一般：年齢／日大生：学年）

- ・クロス集計結果から：一般と日大生にはほぼ共通する点（滞在時間の有する効果は日大生により強い）

商店街に滞在する時間が長い人ほど
 商店街の近くに住んでいる人ほど
 電車を使わずに商店街／学部に来る人ほど

- ・買い物の頻度が高い（図6、7、8）
- ・回遊性が高い（図9、10、11）
- ・消費金額が多い（図12、13、14）





※ 図6～図14におけるカイ二乗検定の結果とクラメールの連関係数 (V 値) は、ランダムサンプリングに基づく調査データではないので参考までに掲げるが、図14のV値が一際高いことに注目しておきたい。

<補足> 1回当たりの消費金額の平均値は、一般が2,547円であるのに対し日大生1,155円。日大生の滞在時間別の消費金額を算出すると、60分未満層が682円であるのに対し、60分以上層が1,572円に跳ね上がる。日大生の滞在時間と消費金額との相関係数を算出すると+0.672となり、数量データの分析からも「滞在時間が長くなれば消費金額が増える」ことが裏付けられた（一般では、これほど強い関連性は確認できず）。

・自由回答の分析結果から (SPSS Text Analytics for Surveys を用いてのグリッドレイアウトによるグラフ)

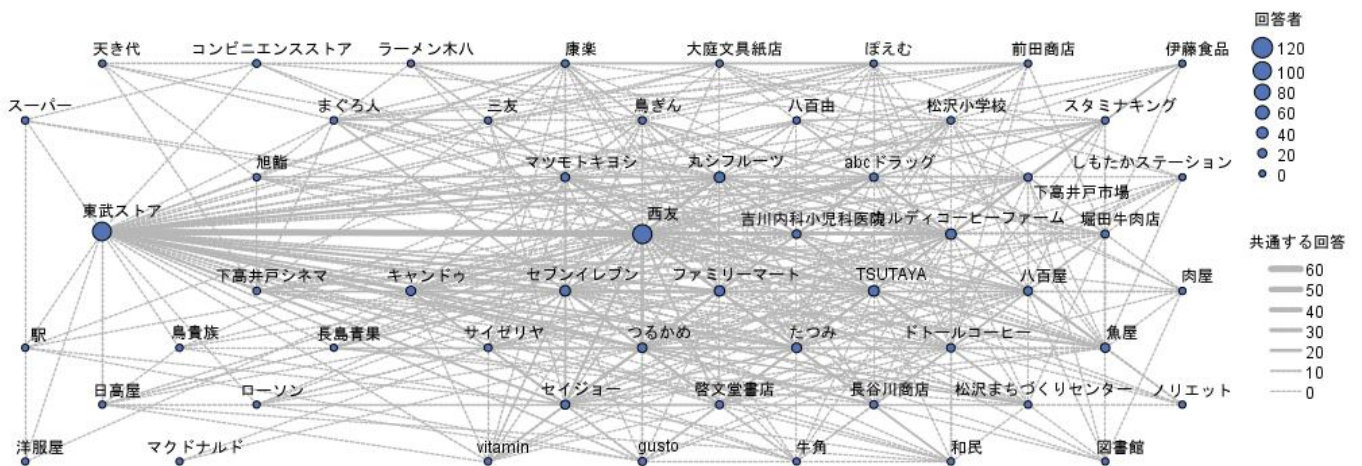


図15. 一般の回答者300名が「よく利用する店や施設」の相関図 ※ 不明/NA 30名

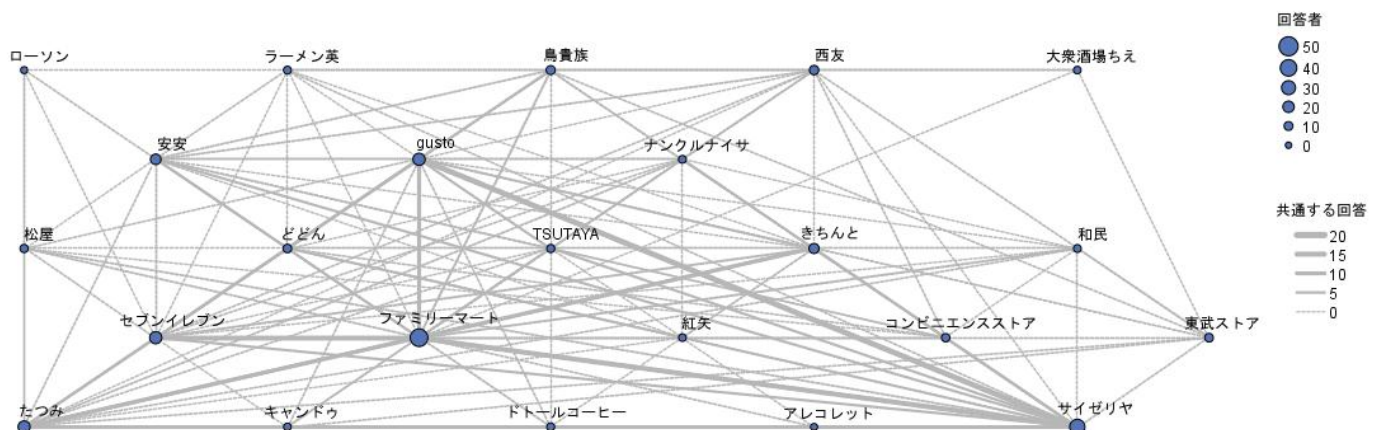


図16. 日大生の回答者127名がよく利用する店や施設の相関図 ※ 不明/NA 7名

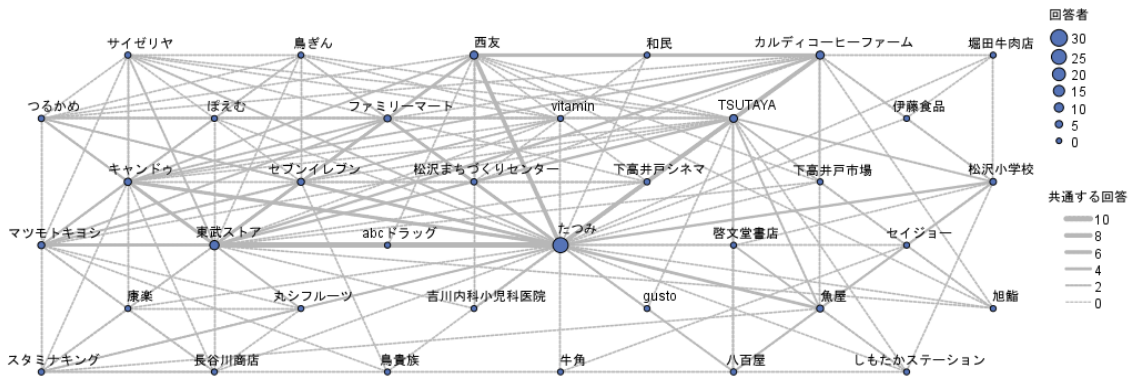


図17. たつみ（居酒屋）をよく利用する26名が他によく利用する店や施設の相関図（一般）

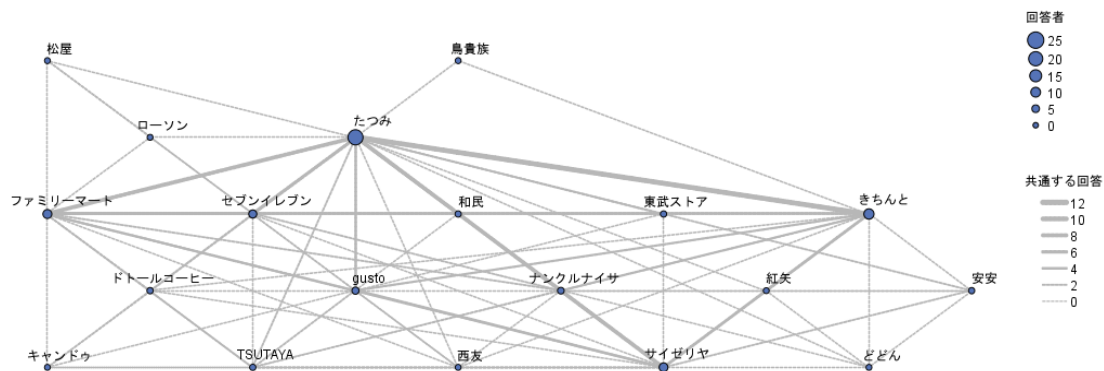


図18. たつみをよく利用する22名が他によく利用する店の相関図（日大生）

・ ご縁券のデータ（事後追跡調査の結果）から

ご縁券利用店ベスト10（一般） ※9/24までの回収分

順位	枚数	ご縁券が使われた店	分類
1位	93	丸シフルーツ	生鮮食品
2位	50	カルディコーヒーファーム	その他の食料品店
3位	47	つるかめ	その他の食料品店
4位	38	ドトールコーヒー	飲食店
5位	30	マツモトキヨシ	ドラッグストア
6位	26	セブンイレブン赤堤4	コンビニエンスストア
7位	24	堀田牛肉店	生鮮食品
8位	22	キャンドウ	雑貨店（100円ショップ）
9位	19	セイジョー	ドラッグストア
10位	12	下高井戸シネマ	映画館
10位	12	大庭文具紙店	文具店

ご縁券利用店ベスト10（日大生） ※9/24までの回収分

順位	枚数	ご縁券が使われた店	分類
1位	73	マツモトキヨシ	ドラッグストア
2位	54	大庭文具紙店	文具店
3位	37	セブンイレブン赤堤店4丁目店	コンビニエンスストア
4位	29	セイジョー	ドラッグストア
5位	17	キャンドウ	雑貨店（100円ショップ）
6位	14	アレコレット	雑貨店
6位	14	ドトールコーヒー	飲食店
8位	11	カルディコーヒーファーム	その他の食料品店
9位	10	つるかめ	その他の食料品店
10位	5	内田青果	生鮮食品

4. 考察と提案

提案とは単にアイデアを羅列することではない。思弁的で恣意的・思いつきの絵空事を並べただけでは、空想にふけることはできても、地域や商店街の活性化を実現することには繋がらない。こうした観点から、最後に、これまでの分析結果から引き出される事柄について若干の考察を加え、実証に基礎を置いた具体的でかつ実現可能性の高い提案

を2, 3に絞って提示しておきたい(2010年10月1日現在、ご縁券の回収も完了していないので、データ分析を引き続き深めていく予定である)。

日大生サンプルに基づく「よく利用する店や施設」のベスト10(複数回答)は、1位:ファミリーマート(コンビニ)44名、2位サイゼリア(飲食)35名、3位:セブンイレブン(コンビニ)とgusto(飲食)23名、5位:つつみ(居酒屋)22名、6位:安安(飲食)17名、7位:きちんと(居酒屋)15名、8位:西友(大型スーパー)12名、9位:鳥貴族(居酒屋)11名、10位:東武ストア(大型スーパー)ととどん(飲食)9名となった。全てがコンビニ、飲食、居酒屋、スーパーで占められており、図15~18を比較参照しながら捉えてみると、よく利用する店のネットワークが一般に比べ非常に狭く、種類も限定的であることが明確である(一般の場合は、大型スーパー、野菜・魚・肉の生鮮3品、飲食・居酒屋、その他の食料品店、コンビニ、ドラッグストア、雑貨などなど、種類も数も豊富に相互利用されており、さらに医院、書店、映画館、小学校、まちづくりセンター、しもたかステーションなども、店舗・施設ネットワークの重要なノードになっている)。

こうした調査結果を踏まえて、上掲の日大生のご縁券利用店のランキング結果を注視すると、2位の文具店、6位の雑貨店、10位の生鮮食品店、ランク外ながら菓子店や他の生鮮食品店でも複数枚利用されている点が改めて注目される。これらは、よく行く店やお薦めの店として日大生が答えている店に挙がっていないものばかりであり、日大生の「潜在的なニーズ」のありかを教えてくれる。ご縁券の利用に際して「新発見/再発見」を促した(「ご縁」創出の端緒となり、日大生の店舗・施設利用のネットワークを縦横に押し広げる)可能性が秘められている、と捉えることが可能である。

次に注目すべきは、データ分析によって導かれた「日大生と下高井戸商店街との『ご縁』の創出には商店街での滞在時間を長くできるかどうか鍵を握る」という点である。一般の場合、滞在時間の長短が消費金額をダイレクトに押し上げる効果やメカニズムの作動をよりハッキリと把握することができなかつたのに対して、日大生の場合は、滞在時間の長短が買い物の頻度、回遊性の高低、消費金額の多寡を直接的に左右する結果が何重にも引き出せた。今回の社会実験によって導かれた重要な知見と言ってよい。

となれば、日大生の関心を商店街に向かわせて、滞在・滞留の時間を長くさせる手立てを講じることが極めて有効となる。下高井戸商店街が日大生の潜在的なニーズを満たす可能性が大きいことも今回の社会実験によって確認できたので、興味・関心を高めてもらう多様な機会・経路を作ることに取り組めばよい。地域や地元の商店街が学生にとって生きた学びの場=キャンパスになることを前提とすれば、新入生のガイダンス時に商店街のパンフレットやマップを配布して紹介することがあってしかるべきである(卒業するまでの4年間のスタート段階での「縁結び」)。

また、この点とも関連するが、今回の経験は私たちに、「まちかどライブ」それ自体が商店街や地域と学生との「ご縁」を創出する大きな力を有している(大学と商店街とを結ぶ有力な「架け橋」となる)ことを教えてくれた。学園祭や講演会などのように、大学の構内で行われるイベントに地元商店街や地域住民が観客/来場者/聴衆として参加する方向ではなく、逆に、地域や商店街が主催するイベントに学生や教職員が観客/来場者/聴衆として参加する方向でもなく、大学(堀)の中から学生・教職員が飛び出し、地域や商店街と協働して、地域の中で/地域の住民と向き合っ、時間と空間を継続的・持続的に共有するという方向性である。こうした営みは、関係性を築き、人を育み(学生・教職員を成長させ)、共育・共生・共創・協創を推し進め、地域社会と大学の双方をより豊かにしていくことに繋がっていく。

今回の社会実験は、「まちかどライブ」が地元大学生と商店街との「ご縁」を創出し、さらには「コミュニティ・キャンパス」化を推進する「モデル」となり得る確かな手応えを、私たちにもたらしてくれたのである。

＜ 文 献 ＞

- 伊藤滋ほか、2008、『The shoten-gai ライフスタイルと街に関する研究』(財)森記念財団
- 伊藤真知子・小松隆二編著、2006、『大学地域論—大学まちづくりの理論と実践』論創社
- 上田武、2009、『大学発 地域再生:カキネを越えたサステナビリティの実践』清水弘文堂書房
- 片寄俊秀、2002、『商店街は学びのキャンパス:現場に学ぶ まちづくり総合政策学への招待 まちかど研究室「ほんまちラボ」からの発信』関西学院大学出版会
- 小林英嗣+地域・大学連携まちづくり研究会編著、2008、『地域と大学の共創まちづくり』学芸出版社
- 後藤範章、1996、「マルチメソッドとダイレクト・オブザベーション—リアリティへの感応力—」『日本都市社会学会年報』第14号、日本都市社会学会
- 、2000、「集合的写真観察法—都市社会調査の新地平—」『社会学論叢』第137号、日本大学社会学会
- 、2009a、「ビジュアル・メソッドと社会学的想像力—『見る』ことと『調べる』ことと『物語る』こと—」日本社会学会『社会学評論』第60巻第1号、有斐閣(特集:「見る」ことと「聞く」ことと「調べる」こと—社会学理論と方法の視聴覚的編成)
- 、2009b、「ビジュアル調査法の展開と可能性:集合的写真観察法」『新情報』Vol.97、(社)新情報センター
- 、2010、「地域資源の発掘と情報共有システムの構築をめざして」『都市社会研究』No.2、せたがや自治政策研究所(特集:地域資源の発見と活用)
- 三浦展+神奈川大学曾我部昌史研究室、2008、『商店街再生計画:大学とのコラボでよみがえれ!』洋泉社